



「声」の欄・投稿規定

- ★「声」の欄は読者の皆さんのお考えを、直接誌面に反映させるためのページです。皮膚病の診療に関する日ごろのご意見、新しいアイデア、ご提言などをお気軽にお寄せください。とくに日夜第一線で診療に活躍しておられる先生方からのご投稿を切望します。
- ★「声」の欄には、また皮膚病に関する“質疑応答”を取り上げます。お寄せいただいたご質問は、その方面の権威に依頼して適切な回答を用意し、誌上で発表いたします。とくに回答者を指名されても結構です。
- ★字数は一般のご投稿は1,200字以内、質問は600字以内を原則とします。
- ★ご投稿は郵送のほか、E-mail (アドレス:hs1979@intage.com) にても受け付けております。
- ★原稿には住所・氏名を明記していただきます。

デルモベート®とキンダベート®

いつも貴誌を拝読し勉強させていただいております。今回のお尋ねですが、2026年3月以降、デルモベート®とキンダベート®の流通がなくなり、すべてジェネリック品のクロベタゾールプロピオン酸エステル、クロベタゾン酪酸エステルとなります。さて、両者は名称がかなり似ています。そうすると、この横綱と、十両クラスの外用薬のあいだで「取り違い事故」の可能性がでてくるのではないのでしょうか。要するに乳幼児の顔に旧デルモベート®が処方もしくは調剤され、何も知らない親御さんがそれを長期に使用してしまうような事案（事故）です。

というのは少し話が調剤の件にそれるのですが、当院で、これらジェネリック品とヘパリン類似物質軟膏との配合変化を検討するため、混合調剤の試作をしたところ、さっそく取り違いが発生したのです。しかも、その取り違いは、外見ではほぼわからないものでした。今後、実臨床で取り違いの疑義をトレースするとき、よほどの成分分析でもないかぎりには真相が闇

の中になります。ならば、混合処方をしなければよいのですが、名称が明記されたチューブの状態でも、この紛らわしい一般名では「処方箋の打ち間違い」「ピッキング・調剤段階での詰め間違い」がおこりうえると思うのです。

われわれ皮膚科専門医が、何十年も連れ添ってきたデルモベート®とキンダベート®。その違いがどれほど大きいかわかっていますし、名前も全然違います。だからこそ、その取り違いは「ありえなかった」はずで、医療安全上、本当に取り違いが生じたら、それなりの問題案件です。当方は対抗策として、とくにこの2剤への一般名処方には（旧デルモベート®）や（旧キンダベート®）と付記し、院外薬局、とくに門前には、小児にプロピオン酸クロベタゾール（クロベタゾールプロピオン酸エステル）の処方箋が舞い込んだときには、必ず疑義照会するよう伝達中です。

「仮定の質問には答えられない」というご意見もあるかもしれませんが、先生方のお考えはいかがでしょうか。

植田 代三

（植田皮膚科クリニック・田川市）